



名古屋港水族館エンペラーペンギン繁殖への挑戦の歴史

- 1998年 エンペラーペンギンの飼育を開始 (♂2羽、♀4羽)
- 2002年 初産卵！しかし♀×♀ペアで無精卵
2008年まで♀×♀ペアの産卵が続く
- 2009年 和歌山県アドベンチャーワールドと個体交換を行う (♂1羽搬入、♀1羽搬出)
- 2010年 繁殖期の24時間行動観察を開始



ペンギン飼育担当の事務所に設置されたモニターで行動を観察する

ペアの関係性が明らかになり、初めて♂×♀ペアができるも産卵せず

- 2011年 繁殖を成功している他施設を参考に繁殖地の鳴き声を流し始める



展示スペースに設置されたCDデッキ。どこにあるか探してみては？

♂×♀ペア、♀×♀ペアの2ペアがそれぞれ産卵するも無精卵

- 2015年 ♂×♀のペアが3組でき、内1ペアが初めて有精卵を産むも途中で発生停止、ふ化には至らず

- 2018年 交尾がうまくできていないことから、エンペラーペンギンのダイエット作戦を開始



← ダイエット作戦についてはスタッフブログをチェック

1ペア有精卵を産むも途中で発生停止、ふ化には至らず

- 2019年 ♂×♀ペアの2組が産卵、1ペア有精卵だったが、途中で発生停止、ふ化には至らず

- 2021年 交尾がうまくできていないことから、エンペラーペンギンのウォーキング作戦を開始



← ウォーキング作戦についてはスタッフブログをチェック

♂×♀ペアの2組が産卵、1ペア有精卵だったが、途中で発生停止、ふ化には至らず

担当飼育係の声

多くは語りません。「今年こそは！」の一言に尽きます。



南極の冬にこそば... エンペラーペンギンの恋の季節なんだよ!

みんなヒナの誕生を心待ち!

なんどでも言います。今年こそは!

日本とは季節が真逆の南極。名古屋港水族館ペンギン水槽にもまもなく冬がやって来る。そう、今年もエンペラーペンギン繁殖シーズンの到来だ。色々としりこみ、試行錯誤してきたが未だ繁殖成功には至っていない。日本いや、世界中の人が待ち望んでいるであろうヒナ誕生。担当飼育係の思いはただ一つ。今年こそは!

おまけ情報 地球上最も過酷な子育て

気温マイナス60度、風速30m/秒にもなる厳しい南極の冬が繁殖の舞台。メスは産んだ卵をオスに預け、餌を求めて海へ向かう。ここからオスの過酷な子育ての始まり。仲間たちと身を寄せ合いながら、卵を足の甲にのせて立ったまま、ひたすら温め続ける。この間は餌をとることもできず、完全絶食状態に。卵がかえるとヒナに「ペンギンミルク」と呼ばれる食道からの分泌物を与え、メスの帰り日にもおよぶ。

おまけ情報 明るさで季節を

ペンギンは光の強さや長さから季節を感じる。そこで水槽内を照らす。そこで水槽内の周囲の日照データを参考に明るさを調整することで南極の日照を再現している。南極の冬は太陽が1日昇らない「極夜」と呼ばれる薄闇の世界。そのため水槽内も1日中うす暗い環境になっている。